久能山に祀(まつ)られた一説

久能山の西方一線上には薨去した駿府城、母親「お大の方」が子授け祈願した鳳来山（東照宮）、生誕の地、岡崎（東照宮）が東西一線上に並んでおり、家康公の墓所である神廟は西を向いて建っています。これは太陽が東から西に沈む。そして、再び東に再生する、つまり、久能山にお祀りすることは、人として没した家康公が「太陽」の如く、ふたたび「神」として再生するための葬送の地であったのです。

日光山に祀(まつ)られた一説

○政治の中心、江戸から日光は宇宙の中心と考えられた北極星（宇宙を主宰する神＝天帝の宮殿があると信じられた）・真北の方角にあります。このことは、東照宮は宇宙の中心軸線上に祀られたことになり、その神格は「宇宙を主宰する神」と一体化されたことを意味しています。

○久能山の神殿は北北東を背にして建ち、その背後には富士山、さらに延長すると**世良田**、そして日光に至ります。これは久能山に神として再生された家康公が富士（不死）の山を越えて永遠の存在となり、遠祖の地を通り、宇宙の中心軸線上に鎮まったと言うことです。

（高藤晴俊氏 説）